

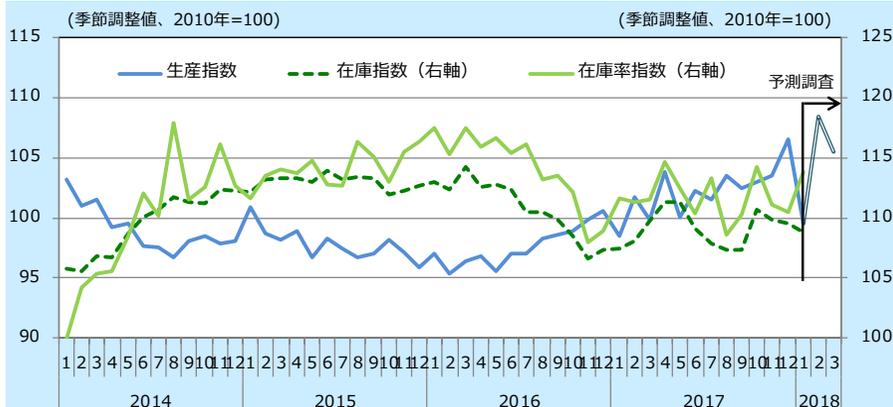
日本：鉱工業生産指数（2018年1月）

一回復基調は維持も半導体需要の動向等を注視一

MRI Daily Economic Points

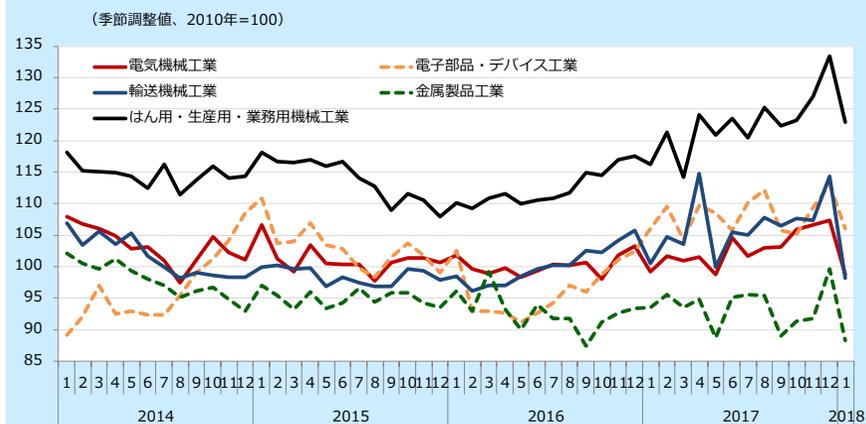
February 28, 2018

図表 鉱工業生産／在庫指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

図表 変動への寄与が大きい業種の生産指数



出所：経済産業省「鉱工業指数」

評価ポイント

2018年1月の結果

- 18年1月の鉱工業生産指数(季調済)は前月比▲6.6%と大幅に低下した。予測調査による1月の生産計画(同▲4.3%)よりも更に大幅な低下となり、東日本大震災が発生した11年3月(同▲16.5%)以来の低下幅であった。
- 15業種すべてが前月比で低下しており、輸送機械工業(前月▲14.1%)、はん用・生産用・業務用機械工業(同▲7.8%)、電子部品・デバイス工業(同▲6.3%)等の寄与が大きかった。好調であった前月の反動に加え、輸送機械は在庫抑制のために米国向け生産を減少させた影響が現れた。電子部品・デバイスはスマートフォン向けのモス型半導体集積回路の生産減が響いた(メモリは同▲13.3%、CCDは同▲25.2%)。はん用・生産用・業務用機械は土木建設機械の低下幅が同▲16.3%と大きく、中国におけるインフラ投資の抑制等が影響し始めている可能性がある。一方、半導体製造装置は中国への輸出増に伴い前月比+15.2%と好調を維持。今後も、中国における半導体製造装置市場の拡大を背景に、生産増が見込まれる。
- 在庫指数は前月比+3.0%と上昇した。輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、化学工業(除. 医薬品)等で上昇している。今後、在庫の積み上がり状況を注視する必要がある。
- 製造工業生産予測調査によると、2月の生産は前月比+9.0%と大幅な上昇が予測されている。経済産業省による補正値は同+4.7%程度で下振れする可能性は高いが、1月の低下分をある程度取り戻せる見込み。また、3月は同▲2.7%と低下が予測されているが、2月の反動の範囲内であろう。

基調判断と今後の流れ

- 18年1月の生産は大幅に低下したが、今後の生産計画も含め、均してみれば回復基調を維持している。
- 今後も、堅調な世界経済を背景とした輸出の拡大や、所得環境の改善に基づく内需の回復が期待されることから、生産は回復基調を維持すると予測。ただし、半導体需要は調整局面に入った可能性があり、先行きを注視する必要があるだろう。